

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	KCS福岡情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	大学併修科	夜・通信	480 時間	320 時間	
	エンジニア・クリエータ科	夜・通信	270 時間	240 時間	
	プログラム・デザイン科	夜・通信	180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ上に公表 <a href="https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/disclosure/">https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/disclosure/</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	KCS福岡情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付の役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	R4. 6. 27 ~ R6. 6. 26	経理・財務
非常勤	株式会社役員	R4. 6. 27 ~ R6. 6. 26	法人経営
(備考) 外部理事 総数 3 名			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	KCS福岡情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)          毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。          実施する授業科目については、様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法が統一されている。          それらのシラバスは各学科の講師が次年度の教育実施計画書を作成する3月末までに整備し、4月に学校ホームページ上で公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学校ホームページ上に公表  <a href="https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/disclosure/">https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/disclosure/</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)          学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。          最終評価点に対する成績評価(秀・優・良・可・不可)については、秀が90点～100点、優が80点～89点、良が70点～79点、可が60点～69点、不可が60点未満と定めており、これらについては修学の手引きに明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優・良・可・不可)で行っていて、優が80点～100点、良が70点～79点、可が60点～69点、不可が60点未満と定めている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校ではGPAを導入していないものの、5段階の成績評価(秀・優・良・可・不可)を設けて評価を行っている。これらについては修学の手引きに明記することで全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価(優・良・可・不可)で行っている。</p> <p>また、成績の分布状況については、半期毎に通知する成績通知書に対象学科における「学年順位」を記載しており、学生は自身の成績が下位4分の1に入っていないかを把握できるようにしている。なお、学年順位は個人ごとにすべての科目の試験点数(評価点)の平均を計算し順位付けを行い客観的な指標としている。また、修学の手引きは、要求に応じて、いつでも閲覧できるよう職員室に設置するとともに、学生には年度始めに配布している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページアドレス  <a href="https://www.kcs.ac.jp/files/uploads/実務経験のある教員等による授業科目の一覧表.pdf">https://www.kcs.ac.jp/files/uploads/実務経験のある教員等による授業科目の一覧表.pdf</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>&lt;卒業の認定方針&gt;</p> <p>教育理念及び目標とする人材像に基づき、実践的なIT人材として必要な以下の能力を身に付け、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の科目を履修した学生に対して卒業を認定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報システム開発の知識と技術を修得し問題解決に活用できる</li> <li>・コミュニケーション力を持ち、他者と協働できる</li> <li>・倫理観を持って行動できる</li> </ul> <p>&lt;実施に係る取組&gt;</p> <p>「修業年限以上在籍」については主に出席状況、「所定の科目を履修」については成績評価状況を基に判断する。</p> <p>なお、出欠及び成績評価状況は、1年次から半期毎に学生・保護者へ通知のうえ、問題がある場合は適宜フォローを行いながら進級・卒業指導を行い、年度末の「進級・卒業判定会議」を経て、校長が進級・卒業を認定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページアドレス  <a href="https://www.kcs.ac.jp/files/uploads/02_学科・専攻の概要.pdf">https://www.kcs.ac.jp/files/uploads/02_学科・専攻の概要.pdf</a></p>

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	KCS福岡情報専門学校
設置者名	学校法人 電子開発学園九州

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には学校備付けの「貸借対照表」を閲覧させる
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公開 <a href="https://www.kcs.ac.jp/files/uploads/08_学校財務.pdf">https://www.kcs.ac.jp/files/uploads/08_学校財務.pdf</a>
財産目録	希望者には学校備付けの「貸借対照表」を閲覧させる
事業報告書	希望者には学校備付けの「貸借対照表」を閲覧させる
監事による監査報告（書）	希望者には学校備付けの「監事による監査報告書」を閲覧させる

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	大学併修科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,930 単位時間	1,740 単位時間	862 単位時間	1,328 単位時間		
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		186人	0人	7人	0人	7人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。 それらのシラバスは各学科の講師が次年度の教育実施計画書を作成する3月末までに整備し、4月に学校ホームページ上で公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。 最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては修学の手引きに明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優・良・可・不可）で行っている。

卒業・進級の認定基準
(概要) 進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。
学修支援等
(概要) 中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）					
卒業生数	進学者数		就職者数 (自営業を含む。)		その他
61人 (100%)	0人 (0%)		59人 (96.7%)		2人 (3.3%)
(主な就職、業界等) 情報処理開発、IT系、ゲーム系企業など					
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して、学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで、就職活動を完全にバックアップ 保護者会、業界動向セミナー、校内企業説明会などを実施					
(主な学修成果（資格・検定等）)					
資格・検定名	受験者数	合格者数	資格・検定名	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	61人	25人	応用情報技術者試験	26人	6人
情報処理安全支援士	4人	2人	データベーススペシャリスト試験	2人	1人
情報セキュリティマネジメント試験	15人	8人	Oracle Java Programmer Bronze	10人	2人
マルチメディア検定ベーシック	13人	5人	CGクリエイター検定エキスパート	13人	2人
(備考) (任意記載事項)					

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
207人	10人	4.8%
(中途退学の主な理由) 意欲低下、心神耗弱、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	エンジニア・クリエイタ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,420 単位時間	1,718 単位時間	420 単位時間	1,282 単位時間		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
450人		353人	0人	19人	0人	19人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは各学科の講師が次年度の教育実施計画書を作成する3月末までに整備し、4月に学校ホームページ上で公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては修学の手引きに明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優・良・可・不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
153人 (100%)	0人 (0%)	145人 (94.8%)	8人 (5.2%)

(主な就職、業界等) 情報処理開発, IT系, ゲーム系企業など					
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して, 学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで, 就職活動を完全にバックアップ 保護者会, 業界動向セミナー, 校内企業説明会などを実施					
(主な学修成果 (資格・検定等))					
資格・検定名	受験者数	合格者数	資格・検定名	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	153人	76人	応用情報技術者試験	70人	9人
情報処理安全支援士	7人	1人	データベーススペシャリスト試験	4人	1人
情報セキュリティマネジメント試験	34人	20人	Oracle Java Programmer Bronze	23人	12人
マルチメディア検定エキスパート	21人	8人	CGクリエイター検定エキスパート	8人	5人
(備考) (任意記載事項)					

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
384人	10人	2.6%
(中途退学の主な理由) 意欲低下、心神耗弱、病気、就職		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	プログラム・デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,310 単位時間	1,320 単位時間	230 単位時間	760 単位時間		
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
110人		68人	0人	6人	0人	6人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>毎年「教育課程編成委員会」を開催して、授業科目の見直しや新設、廃止を決定している。実施する授業科目については、様式及び記載項目（科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法）、表現方法が統一されている。</p> <p>それらのシラバスは各学科の講師が次年度の教育実施計画書を作成する3月末までに整備し、4月に学校ホームページ上で公表している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学生の出席状況については、授業科目を実施する毎に出席確認を行い記録している。また、試験やレポート等の評価については、各授業科目のシラバスに明記しており、その内容に従って適正な評価を行っている。</p> <p>最終評価点に対する成績評価（秀・優・良・可・不可）については、明確な点数基準を定めており、これらについては修学の手引きに明記することで、全学生へ周知している。なお、2018年度以前に入学した学生に対する成績評価は4段階評価（優・良・可・不可）で行っている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>進級・卒業の認定は、①学科所定の年限以上在籍すること、②学科所定の科目を履修すること、としており、①については主に出席状況、②については成績評価状況を基に判断する。</p>
学修支援等
<p>（概要）</p> <p>中途退学への取組として、担任、学年主任、コース長によるフォローと併せ、スクールカウンセラーによる継続的なカウンセリングを受ける機会を設けている。また、様々なハラスメントを防止するため、ハラスメント防止委員会と相談窓口を設置し、学生からの悩みや相談に対応できる体制を整えている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	28人 (93.3%)	2人 (6.7%)

(主な就職、業界等) 情報処理開発, IT系, ゲーム系企業など					
(就職指導内容) クラス担任と就職指導スタッフが連携して, 学生一人ひとりにあった万全の就職サポートで, 就職活動を完全にバックアップ 保護者会, 業界動向セミナー, 校内企業説明会などを実施					
(主な学修成果(資格・検定等))					
資格・検定名	受験者数	合格者数	資格・検定名	受験者数	合格者数
基本情報技術者試験	26人	11人	応用情報技術者試験	11人	3人
情報処理安全支援士	3人	1人	情報セキュリティマネジメント試験	4人	2人
マルチメディア検定ベーシック	4人	3人	CGクリエイター検定ベーシック	4人	4人
(備考) (任意記載事項)					

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83人	3人	3.6%
(中途退学の主な理由) 意欲低下、心神耗弱、病気		
(中退防止・中退者支援のための取組) スクールカウンセラーによる面談、補講などの授業フォローアップ、保護者との面談、ハラスメント相談窓口など		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
大学併修科	100,000 円	364,000 円	420,000 円	
エンジニア・クリエイタ科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
プログラム・デザイン科	150,000 円	558,000 円	458,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/evaluate">https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/evaluate</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 企業等委員、卒業生委員および地域住民委員から構成される委員会が、学校の自己評価結果をもとに、学校運営を評価する。 主な評価項目は、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献である。 その評価結果を教育活動その他の学校運営改善等に生かし、学校運営の客観性と透明性を高めることを目的とする。 学校関係者評価委員の定数は5名である。 評価結果については、校長が責任者として毎年3月までに改善策を策定し、次年度の学校運営に反映する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社チーフ	令和6年8月16日 ～令和7年3月31日	企業委員
株式会社技術部長	令和6年8月16日 ～令和7年3月31日	企業委員
町内代表取締役社長	令和6年8月16日 ～令和7年3月31日	地域住民
株式会社従業員	令和6年8月16日 ～令和7年3月31日	卒業生
株式会社従業員	令和6年8月16日 ～令和7年3月31日	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/disclosure/">https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/outline/disclosure/</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		



c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

<https://www.kcs.ac.jp/fukuoka/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H140313000485
学校名 (〇〇大学 等)	K C S 福岡情報専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人電子開発学園九州

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		142人	139人	139人
内訳	第Ⅰ区分	84人	82人	
	第Ⅱ区分	37人	36人	
	第Ⅲ区分	21人	21人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				139人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	0人	—
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	—	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	11人	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	0人	0人
計	17人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。